

(7) 那須地域への移転の意義について

想定課題

那須地域への移転の意義は何か。

対応方向

国会等の移転は、数十年の期間をかけて行われる国家の一大プロジェクトであり、その過程では東京との重都期間がしばらく続くものと思われます。移転先地は、移転の過程や移転後においても、経済・文化の中心である東京と、政経分離を図りながら、しかも、適切な連携が図りやすい位置関係が必要です。

那須地域は、今後の発展可能性の高い東北地方の中心都市である仙台と東京とのちょうど中間に位置しており、将来の日本のバランスある発展に大きく寄与できるばかりでなく、東京とは、政経分離が図れる十分な距離にありながらアクセス時間は新幹線で1時間程度という位置関係にあるため、重都期間中においても適切かつ柔軟な連携が可能です。

また、21世紀の都市づくりは、開発のみに依存するのではなく、人と自然が共生し、都市と農山村が調和した心豊かな地域づくりが求められており、新都市は、その先駆け、モデルとなるような都市であるべきと考えます。

那須地域は、平坦な地形であることから、経済的かつ自由度の高い都市建設が可能であり、造成時においても切り土・盛り土の必要が無く自然環境への負荷も少ないものと考えます。また、牧草地が多いため、極力、木を切らないような都市建設が可能です。

特に、今後の自然環境共生型の都市づくりに必要な豊かな自然や農山村、また、国会等移転審議会から満点の評価を得た秀峰明水の品格のある景観を有しており、世界に対する21世紀の日本の顔としてふさわしい新しい都市づくりに適したポテンシャルを備えていると考えます。

このように、那須地域は、国家百年の大計である国会等の移転というプロジェクトに対し貢献できる地域であり、那須地域への移転こそ、国会等移転の有する国家的意義に応えるものであると考えます。